



福祉



子ども

演劇を取り入れた キッズ認知症教室



文化芸術

子どもたちの心に届く やさしいまちづくりの第一歩

課題

認知症への理解が届きにくい

練馬区では高齢者人口が約16万人、認知症当事者は約3万人と推定され、理解促進が急務です。しかし、三世帯同居率の低下により、子どもが認知症に触れる機会が少なく、家庭や地域での理解が進みにくい現状があります。認知症を正しく理解し、寄り添う力を育む仕組みが求められています。

アイデア

演劇で伝えるやさしさと気づき

演劇を取り入れた『キッズ認知症教室』を開催し、子どもたちが参加型の舞台を通じて認知症の特徴や接し方を体感的に学ぶ機会を創出します。大学生や劇団、福祉団体が協働し、リアルな現場の知見を反映し、理解者を育てることを目指しました。大学生が演じることで若者自身の学びにもつながる仕組みです。



実施団体

認知症を考えるカフェ練馬

地域で認知症について語り合える場を提供し、当事者や家族、支援者がつながる活動を展開。講演会や施設見学、ワークショップなどを通じて、認知症にやさしいまちづくりを目指しています。

企画・運営、地域連携

THEATRE MOMENTS

台詞・音楽・身体表現などで観客に普遍的なメッセージを届ける舞台を創作する演劇プロデュース団体

演劇指導、演出等

認定NPO法人 ふくし住まい支援の会

住宅改修に関する知識と経験を活かし、高齢者や障害者が安心して自分らしく、安全・快適に暮らせる住まいづくりを目指す団体

学びの提供



日本社会事業大学の皆さん

福祉を学ぶ大学生 出演者として参加

スケジュール

4月～

8月

10月

11月

1月～

顔合わせ

勉強会

勉強会

勉強会

準備・初演

- ・事業全体の企画検討
- ・大学生向け説明会
- ・役割分担の確認
- ・初演会場の検討

- ・演劇ワークショップ
- ・施設見学

- ・認知症講義
- ・演劇ワークショップ
- ・方向性の検討
- ・フォーラムシアター導入検討

- ・演劇ワークショップ
- ・撮影方法検討
- ・劇構成の検討
- ・初演会場との調整

- ・初演の周知・広報
- ・動画撮影準備
- ・リハーサル
- ・演出調整
- ・3月26日初演予定

実施内容



現場に触れ リアリティある舞台へ

上石神井の小規模多機能型居宅介護施設「しゃくじいの庭」を訪問し、青木代表から利用者の暮らしや支援の工夫について直接学びました。現場でのリアルな話に触れ、参加者は自分の家族の認知症経験や実習での気づきを共有。こうした交流を通じて、認知症の背景にある記憶や感情を理解し、脚本や演技にリアリティを加える視点を獲得する貴重な機会となりました。

学びと表現がつながる参加型演劇の創作

初演は、3月26日(木)平和台児童館で開催予定です。演劇は認知症の特徴や接し方を学べる内容で構成し、観客である子どもたちが登場人物の行動に介入し、より良い関係性を模索する「フォーラムシアター」の手法を取り入れます。子どもたちの自由な発想を活かしながら、演劇をともに育てていくことで、回を重ねるごとに成長する事業を目指しています。初演に向け、各団体が協働し、ブラッシュアップを重ねて準備を進めています。

事業の成果・今後の展開



ワークショップで表現を学ぶ

演劇ワークショップでは、学生がゲーム感覚で演技の基礎を学び、同じ台本を異なる設定で演じ分ける課題に挑戦しました。楽しさの中に奥深さがあり、表現の幅や役柄への理解が広がる体験となりました。演劇を通じて「認知症をどう伝えるか」を考える第一歩として、参加者同士の対話も活発に行われました。

専門家から視点を学ぶ

桜台診療所の辰野先生を講師に迎え、認知症の症状や進行だけでなく、その人の“今”に寄り添う支援の重要性を学びました。「できることを奪わない」「ありがとうを伝える」など、日常で活かせる支援の工夫を共有し、演劇の方向性を話し合う深い学びの場となりました。



地域の理解を広げるかに

大学生と劇団、福祉団体が一緒になって台本づくりやワークショップを進めてきたことが大きな成果です。演劇を通じて認知症をどう伝えるかを真剣に考える過程で、若者の柔軟な発想と専門家の知見が結びつき、新しい学びの場が生まれました。

いよいよ初演に向けて稽古を重ねています。これからは区内の学校や施設で巡回公演を広げ、SNSで発信していきます。クラウドファンディングにも挑戦し、大学生との協働を軸に、認知症理解を地域全体に広げる活動を続けます。